

市長への  
手紙から

移動図書館の充実を

【市長への手紙から】  
昨年五月に富士市へ転入し、一児の母となった小村さんからは、気軽に図書館へ出かけられない人のための移動図書館サービスを充実してほしいとお便りをいただきました。

【市長への手紙から】

昨年の十月にとっても立派な図書館ができたことは、富士市民として、とても喜ばしいことです。

けれど、私のように車を運転できない主婦や、お年寄りなどは、どうやって中央図書館まで足を運ばいいのでしょうか。

読書は、子供からお年寄りまでの最も身近な学習手段だと思います。多くの本に触れることで子供は想像力を豊かにし、学生は知識を深め、お年寄りは頭の体操になります。図書館は、それらを満たすための大切な公共施設です。



残念な思いをしています。

そこで、もっと移動図書館サービスを充実してもらえれば、より多くの人が読書を楽しめるのではないのでしょうか。

ところが、私たちの家の近くには図書館がありません。移動図書館車のステーションもないので、とても



小村真理さんと信裕ちゃん（松岡）

【市長の答え】

市では、中央図書館と、西・東図書館、富士文庫の三地域館のほか、でこいち文庫と移動図書館車一台による図書館サービスをしています。これは、図書館の数として県内で浜松市に次ぐものです。

特に中央図書館は、生涯学習と情報化の時代を迎え、図書館への市民ニーズと期待が高まる中、平成七年十月に新しく開館しました。

一方、図書館から離れた地域の人たちのために、移動図書館車のステーションをふやし、蔵書の充実も図っています。特に、お手紙をいただいた小村さん宅周辺（松岡）には、新たにステーションを設ける運びとなりました。

駐車スペースが確保されることや、利用者がある程度見込まれれば、市内の広い範囲で移動図書館サービスを展開していきます。ぜひ、皆さんのご協力をお願いします。そして、何よりも図書館サービスを上手に利用し、読書を楽しんでいただきたいと思います。

幼稚園で言葉の教室

富士市には、市立の幼稚園が九園、私立の幼稚園は十六園あり、各園でさまざまな幼児教育を行っています。

近年、少子化が進む中で、幼稚園へ入る子供たちも減少傾向にあります。そのため、幼稚園の果たす役割や保護者からのニーズもさまざまな変化を見せ始めています。

そのような状況のもと、市立幼稚園では、原田、大淵、田子浦、岩松の四園に言葉の教室を開き、「正しい発音が上手にできない子」への早期対応に取り組んでいます。岩松幼稚園の鈴木恵美子園長は、



ふじ



次のように話してくれました。

「幼稚園の言葉の教室は、サ行やタ行などの発音が苦手、少し吃音があるなど、程度の軽い子供たちを対象に行っています。

言葉の軽いおくれは、生活経験が豊かでなかったり、両親や周囲の人との会話が少なかったりするなどの家庭環境が、第一の原因ではないのでしょうか。

しかし、それほど心配することはありません。ほとんどが、集団生活の中で遊びを通して回復していきます。もし、子供のことで心配事のある人は、ぜひ気軽に幼稚園へ相談してほしいと思います」

平成8年度

市立幼稚園展

7月22日(月)～26日(金)

ロゼシアター展示室

～たのしい 幼稚園～

子供は、いつの時代も遊びの天才。そして、幼稚園児たちも、いろいろな遊びを通して少しずつ成長していきます。

「幼稚園展」では、園児の一日の過ごし方、運動会、ザリガニとり、鬼遊びや室内遊戯など、幼稚園の楽しい生活を紹介します。

ぜひ、気軽にお出かけください。

問い合わせ 学校教育課 内線 2734

